

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	15-303	慶應義塾大学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Baclofen for alcohol withdrawal. アルコール離脱症に対するバクロフェン投与		
<b>執筆者</b>		
Liu J, Wang LN.		
<b>掲載誌</b>		
Cochrane Database Syst Rev. 2015 Apr 3;4:CD008502. doi: 10.1002/14651858.CD008502.pub4.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID:</b>
アルコール離脱症、バクロフェン		25836263
<b>要 旨</b>		
<p>背景： バクロフェンによる治療は、アルコール症のある人々で重篤なアルコール禁断症候群 (AWS) の症状を急速に減弱する潜在能力を示す。バクロフェンによる治療は、管理するのが容易であり、多幸感または他の楽しい感じや 薬剤への切望感を生じにくい。これは、2013 年第2号として発表された Cochrane レビューの最新版である。</p> <p>目的： AWS のある人々に対するバクロフェンの効能と安全性を評価すること。</p> <p>検索方法： 我々は、Cochrane Drugs and Alcohol Group Specialized Register (2015 年 1 月 13 日に検索)、Cochrane Central Register of Controlled Trials (本部 2015、1 号)、MEDLINE (1966 年から 2015 年 1 月)、EMBASE (1980 年から 2015 年 1 月) と CINAHL (1982 年から 2015 年 1 月) を検索対象とした。さらに、ClinicalTrials.gov、ISRCTN レジストリ、European Clinical Trials Database に含まれる進行中の試験の登録簿をも検索した。これと同時に、我々である基準が同定された試験で引用された未発表または未完成の試験についての研究者、製薬会社と関連した試験の著者からの探された情報を手作業で加えた。我々は、検索する対象の言語の規制をしなかった。</p> <p>選択基準： 我々は、AWS のある人々のバクロフェン対プラセボ、または他のいかなる治療も評価しているすべての無作為抽出臨床試験 (RCT) を含めた。我々は、対照がないか、非無作為であるか、準無作為の試験を除外した。我々は、平行した群のクロスオーバー研究を含めた。</p> <p>データ収集と分析： 2 人のレビュー者は、包含のために検索された可能性がある参考文献をそれぞれに評価した。どのような意見の相違も、独立した当事者によって解決された。必要な情報があれば、我々は研究の著者に連絡した。我々は、試験から副作用情報を集めた。</p> <p>主要結果： 2 件の RCT で合計 81 人の参加者が、包含基準に従って資格があった。1 つの研究は、バクロフェンとジアゼパムが Clinical Institute Withdrawal Assessment of Alcohol Scale 改訂版 ((CIWA-Ar) スコア) を有意に減少させるが、2 つの介入の間に有意差がないことを示唆した。2 つ目の研究では、バクロフェンとプラセボの間の CIWA-Ar スコアの有意差でないが、バクロフェンではプラセボと比較して、高用量ベンゾジアゼピンに対する依存が有意に減少した。バクロフェンの安全性について報告したのは、1 つの研究だけであったが、どんなも副作用なかった。</p> <p>結論： バクロフェンを AWS に推薦することの証拠は不十分である。従って、その有効性と安全性を証明するために、よりよく設計された RCT を必要とする。</p>		